

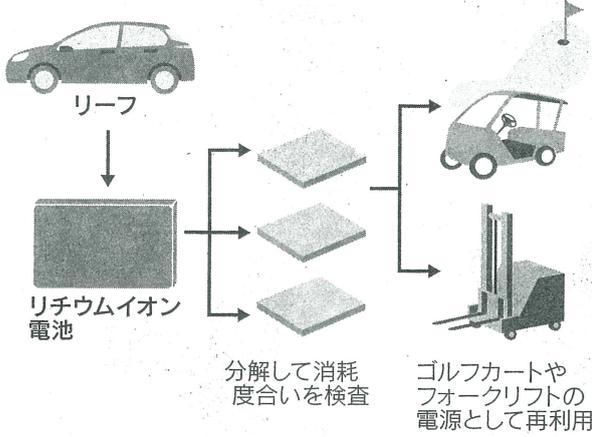
# 日産「リーフ」の電池再利用

## 川島グループ

非鉄金属や貴金属のリサイクルを手掛ける川島グループ(浜松市)は、日産自動車の電気自動車(EV)「リーフ」に搭載しているリチウムイオン電池の再利用事業に乗り出す。ゴルフカートやフォークリフト向けに鉛電池の代替品として加工・販売する。電池の長寿命化や充電時間の短縮、車両の航続距離延長など高性能をアピールし、拡販につなげていく。

リーフのリチウムイオン電池は消耗後、日産と住友商事が共同出資するフォーアールエナジー(横浜市の浪江事業所(福島県浪江町))で分解し、消耗度合いを検査する。一定の品質基準を満

一定の品質基準を満たしたものを再利用



## ゴルフカートで実証実験 鉛電池より寿命3倍以上



ゴルフカートでの実証実験を始めた

たしたものを川島グループで新事業・新分野開発を担うシンコーフレックス(浜松市)が購入し、加工・販売する。

川島グループが運営する静岡県森町のゴルフ場「ザ・フォレストカントリークラブ」でゴルフカート1台に再利用のリチウムイオン電池「LIBパワーユニット」を搭載し、実証実験を始めた。

28日には10台に追加搭載する。

ゴルフカートで一般的な鉛電池は約2年ごとに交換する必要がある。LIBパワーユニットは6年以上の寿命が見込まれる。重量は鉛電池より150キログラム軽く、ゴルフカートの航続距離を1.5〜2倍に延ばせる。価格は鉛電池と同程度での販売やリースを予定。川島グループの全国の拠点や提携先による保守・点検体制も整備する計画だ。

リチウムイオン電池の再利用品はフォークリフト向けにも販売する。ま

の物流事業者に供給する方針だ。この事業者は現在、鉛電池を8時間でフル充電し、3交代で24時間稼働している。リチウムイオン電池は通常充電で3時間程度、急速充電で1時間程度でフル充電が可能となつて、フォークリフトの航続距離も延びるため、3分の1ほどの稼働で現在と同等の業務

をこなせる見込みだ。リチウムイオン電池の再利用事業は2020年3月期から本格展開を始める予定。25年3月期には同事業の売上高を5億

円に伸ばす方針だ。川島グループの18年3月期の売上高は740億円。25年3月期には1000億円への引き上げを目指す。